

私の設計手法「もったいない&木づくり空間」

いつまでもあると思うな・・・ではないが、石油の埋蔵量も既にピークを超しているといえます。原子力発電ではない安全安心のエネルギーを第一に考えるためにも自然エネルギー・太陽光・熱利用などを積極的に住まいにも取り入れ、省エネで暖かく涼しい住まいを実現していきたいと考えています。

北国育ちの私は冬、住まいが暖かいと本当に心から幸せを感じる。関東、東海地方は冬には晴天が続き太陽の恵みがふんだんにあるのだから、この太陽熱や光を住まいに利用しない手はないと思います。



ソーラーパネル

太陽を活かしたソーラーハウスのシステム・太陽光発電とともに、もう一つ太陽熱を利用した空気集熱方式は、大げさな機械を使わないパッシブ方式で、太陽の熱で暖められた空気を家全体に巡らす方法も実施しています。



右側に見えるのは、暖気を循環するパイプ（OMソーラー）

気密断熱工法による住まいづくりをベースにして、上記のシステムを取り入れたシンプルなソーラーハウスや、南側の暖かい空気を北側の水回りのスペースに換気扇で送る方式を取り入れた暖かい家づくりをしています。



色ガラスの入った建具を移設

宮崎駿の「トトロ」の家ではないが大正、昭和の古い住まいが今消えつつあります。数年前、築70年の古い家を解体して、その材料（柱・梁・板・障子・建具・アルミサッシュなど）を再利用した家づくりをしました。



旧宅の小屋梁や箱階段を再利用

上記の仕事をきっかけに「もったいない・愛着がある・なつかしい」をキーワードに、建て替えの旧宅材をリサイクル・リユースした住まいをその後数棟手掛けました。特にA邸では奥様が育った旧宅は愛着があるということから徹底的にこれらの材料を再利用し、重量比で通常の半分まで廃棄物を軽減出来ました。



旧宅の格子のガラス戸・欄間・板戸・襖などを再利用

木構造は家族の思いを様々な形に造ることが可能です。まずは耐震性能に重点を置くことが重要ですが、それと共に家全体の空間や内部の空間に対して木との関わりをいかに作り出すかが「木づくり空間」のポイントです。それは住む人に「木づくり空間」の楽しさや思い出を作ることになると考えています。

木造の在来工法は軸組構法のうち、柱を表した真壁工法は木肌や木組みが美しい。住まいの中に大黒柱があると子供の遊び場や家族の心の支えにもつながります。また、屋根の梁などの構造を室内に現すことにより、ダイナミックな空間が表現され気持ちが開放的でのびのびとします。ここに使用された木々は将来「もったいない」思いから再利用し、家族の歴史を継承出来る良さがあるでしょう。



吹き抜けのリビング上部にも旧ショウジをはめる

家を計画している方はそれぞれの思いや条件がみな異なるため、希望をお聞きした上で、家族がのびのび出来る空間で時間性を大事にした快適な家づくりを試みています。 2012.9月号